

姦通の女

ヨハネによる福音 8:1-11

(そのとき、) イエスはオリーブ山へ行かれた。朝早く、再び神殿の境内に入られると、民衆が皆、御自分のところにやって来たので、座って教え始められた。そこへ、律法学者たちやファリサイ派の人々が、姦通の現場で捕らえられた女を連れて来て、真ん中に立たせ、イエスに言った。「先生、この女は姦通をしているときに捕まりました。こういう女は石で打ち殺せと、モーセは律法の中で命じています。ところで、あなたはどうかお考えになりますか。」イエスを試して、訴える口実を得るために、こう言ったのである。イエスはかがみ込み、指で地面に何か書き始められた。しかし、彼らがしつこく問い続けるので、イエスは身を起こして言われた。「あなたたちの中で罪を犯したことの無い者が、まず、この女に石を投げなさい。」そしてまた、身をかがめて地面に書き続けられた。これを聞いた者は、年長者から始まって、一人また一人と、立ち去ってしまい、イエスひとりと、真ん中にいた女が残った。イエスは、身を起こして言われた。「婦人よ、あの人たちはどこにいるのか。だれもあなたを罪に定めなかったのか。」女が、「主よ、だれも」と言うと、イエスは言われた。「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。これからは、もう罪を犯してはならない。」

説教

聖書を注意して見ると、きょうの福音はカッコでくくられています。このカッコの意味するところは、このエピソードはもともとヨハネ福音書にはなく付け加えられた箇所だという研究成果によるものです。おそらくルカ福音書にあったものが削除され、ヨハネ福音書に再録されたのだろう、と考えられています。先週のルカの福音箇所の続きとして読んでみる、こんな自由な読み方もありかもしれません。

ルカ福音に登場する放蕩息子はじぶんの浅はかな行動を後悔して実家に帰ってきます。すると父は怒るどころか大歓迎します。それを見たまじめな兄がプンプンする、そこで父は兄を慰め、諭すというお話でした。

律法学者たちとファリサイ派の人々が姦通の現行犯で捕らえた女をイエスの前に引き出し、刑の執行（石打による死刑）を迫るといところから今週の話は始まります。現行犯逮捕なので罪状はあきらかで、あとは罰、刑の執行をいつどこでどうするかといところまで事態は煮詰まっています。

罪を犯したことの無い者が、まず、この女に石を投げなさい。（7節）

このイエスの一言で状況は一変します。「聞いた者は、年長者から始めて、一人また一人と、立ち去って」しまいました。イエスもまた女に対して罪に定めない、わたしもまた裁かない、といって女を解放するという話です。先週と今週の福音の同じところは放蕩息子も姦通の女も両名共に裁かれない、許されるという点です。

「こういう女は石で打ち殺せと、モーセは律法の中で命じています。」石を投げて打ち殺す・・・なんと恐ろしいことでしょう。しかし、よくよく私自身自分の生活を振り返ると“あの人はこんなことを言った、やった。また、こうしなかった・・・。”と、心の中で呟いたり他の人にぼやいたりしている事が沢山あります。地面に転がっている“石”を投げたりはしていませんが心の中で目に見えない石を、人に向かって投げようとしたことがあります。

「霊性センターせせらぎ、日曜日のみことば」2016.3.13 ホームページから引用
自分は石など投げたことがない、石を投げて打ち殺すという暴力は許せない、と感じる。でも、心の中で目に見えない石を人に向かって投げようとしたことがないか？と自問するとどうでしょう。

ガリラヤの丘でイエスはわたしたちにこう命令しました。

あなたがたも聞いているとおり、『姦淫するな』と命じられている。しかし、わたしは言うておく。みだらな思いで他人の妻を見る者はだれでも、既に心の中でその女を犯したのである。 マタイ 5:27-28

このイエスの新しい掟を守ることはできるのでしょうか。誰でも心の中で姦

淫してはいませんか？そして誰でも心の中で石を投げていないと断言できますか。

「あなたたちの中で罪を犯したことの無い者が、まず、この女に石を投げなさい。」そしてまた、身をかがめて地面に書き続けられた。これを聞いた者は、年長者から始まって、一人また一人と立ち去ってしまい、イエスひとり、真ん中にいた女が残った。(ヨハネ8:7-9)

人びとは女を罪に定めることなく立ち去った。でもいったん家にもどったらどうなるか。また許せない気持ち、感情がわいて出てくることはないでしょうか。かりに当事者の女が夫の元へ戻ったとします。夫や家族のものは彼女をどのような気持ちで受け入れることができるのでしょうか。心の中の石をそっと手放し、石を置くことはできるのでしょうか。

あるときイエスは借金のたとえを話されました。1万円の借りを帳消しにされた者と1億円の負債を棒引きにしたもらった者はどちらがより多く感謝の気持ちを持つかというたとえでした。

イエスと二人きりになって残された女はイエスからおことばをいただきます。

わたしもあなたを罪に定めません。(ヨハネ8:11)

そのときの彼女の気持ちを他人のわたしたちがおしはかることはできません。しかし彼女が誰よりも深い感謝の気持ちに満ちていたことを想像することはゆるされるでしょう。また石を置いて立ち去った人たちも、家に戻って怒りが鎮まり、そしてイエスに感謝した人もいることでしょう。

それとは逆に、家に戻ってこの出来事を振り返りまた怒りが湧き出し、イエスに対するしかえしを執念深く狙う人々もいます。福音はそんな執念深い人たちに翻弄されるその後のイエスの道行きを詳しく伝えています。

きょうから四旬節の最後の週が始まります。わたしたち一人ひとりの心の中にある石を真剣に見つめ、そしてその石をそっと地面に置くことができますように。

使徒信条

わたしは、天地の造り主、全能の父である神を信じます。

また、その独り子、わたしたちの主イエス・キリストを信じます。

主は聖霊によって宿り、おとめマリヤから生まれ（ここで礼をする）ポンテオ・ピラトのもとで苦しみを受け、十字架につけられ、死んで葬られ、よみに降り、三日目に死人のうちからよみがえり、天に昇られました。

そして全能の父である神の右に座しておられます。そこから主は生きている人と死んだ人とを審くために来られます。

また、聖霊を信じます。†聖なる共同の公会、聖徒の交わり、罪の赦し、体のよみがえり、永遠の命を信じます アーメン

共同祈願

ともにいてくださる神に信頼して祈りましょう。

- ・ 罪のゆるしを告げられる主に従って、わたしたちが神の前にへりくだり、信じる心を新たにすることができますように。
- ・ ネット社会で助長される中傷や差別を退けて、一人ひとりがみ心にかなう正義と平和を求めることができますように。
- ・ 主の過越の記念を準備するわたしたちを照らしてください。神のみ旨にすべてをゆだねる決意を深められますように。
- ・ （あなたに必要な祈りを追加してお祈りしてください）

神よ、あなたの愛を注いでください。

わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン